

受験時点と在学中の5教科成績プロフィールの特徴

— ある高等学校についての事例分析 —

池田 輝政・山村 滋・岩田 弘三

本研究では、文系と理系という類型（コース）別編成を採るある高校（以下「A 高校」と呼ぶ。）のケースに基づき、受験時点の5教科（国語・数学・外国語・理科・社会）成績プロフィールが高校在学中の試験成績の5教科プロフィールとどのように関係し、彼らの進路選択の現実とどのように係わっているかを調べた。

A 校生の受験時の5教科プロフィールの特徴は、全国的にも高い比率となる理数、国社、国外の型に加えて、国理や国数の型も同じく高い比率となった。このA高校の受験時の特徴を在学時の試験成績プロフィールと対応させた結果、国社や理数や国理は在学時でも安定して高い比率を示した。また、受験時点で高い比率を示した国外や国数の型は在学中には一貫して高くはないが、受験時に近づく次第に高くなるという傾向が読み取れた。

また、成績プロフィールの集団差について、学習内容の差異を意味する類型差を見てみた。その結果、受験時点でも在学中でも一貫した特徴として、

国社、国理、社理の型は文系集団に偏り、理数と国数の型が理系集団に偏る傾向にあった。

受験時点と在学中の成績プロフィールの等質性を仮定して、以上のような集団的特徴を抽出してきたが、さらに個人レベルの成績プロフィールの推移状況についても分析を行った。その結果、10タイプのプロフィールの中で国社、国外、国理、理数の4つの型が同じ型に留まる傾向性の強い型であった。また、特に3年10月と受験時のプロフィールの推移において、生徒個人の5教科の成績プロフィールが安定する可能性を示唆した。以上のような5教科プロフィールの分析を踏まえて、A高校生徒の文系理系の志望変更者等について成績プロフィールの特徴を調べてみた。文系集団についてはその数が少数なのではっきりとした特徴はでなかったが、理系集団については、いわゆる「隠れ文系」なる現象が指摘されてきているのと符合すると思われるが、国社、国外、社外の型に変更者・変動者が表れやすかった。